

ぼうじぼ、わらでっぼう

子どもたちが、「ぼうじぼ当たれ、そば当たれ」などとか
け声をかけながら、わらで作った棒^{ぼう}※¹で地面をたたいて歩
き、各家を回ります。その年の豊かな実りへ感謝し、来年
の五穀豊穰^{ごこくほうじょう}※²を祈る行事です。

※1 わらで作った棒＝県の南部では「わらでっぼう」、県の中央部では「ぼうじぼ」、県の北部では
「豊年棒（ほうねんぼう）」という呼ばれ方があります。

※2 五穀豊穰＝作物が豊かに実ること。

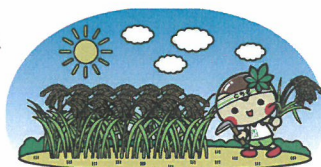


ぼうじぼでたたく
(平成 28 年さくら市蒲須坂 県立博物館提供)

～とちぎ人の想い～

- ・声の掛け合いが楽しかったです。
- ・ご褒美^{ほうび}がほしくて、大きな声でさけびま
した。

自然の恵^{めぐ}みに感謝して、
地域の人とともっと仲良くなれる、
すばらしい行事まるね～。



〈ぼうじぼの説明〉

県内各地で十五夜や十三夜などに行わ
れてきました。かけ声は、地域^{ちいき}によって
いろいろあるようです。

「十五夜のわらでっぼう、大麦当た
れ、小麦当たれ、三角畑のそば当たれ」、
「ぼーちぼったれ山芋^{やまいも}」などと唱えなが
ら家々を回ります。

地面を打つことによって、作物に害を
あたえるモグラを退治^{たいじ}できるといわれて
おり、近所の家をまわると、ご褒美^{ほうび}にお
菓子^{かし}やお駄賃^{だちん}がもらえます。

打ち終わったら、柿^{かき}の木にかけてお
き、たくさん柿が実ることをお祈りしま
した。



〈下野かるた『つ』より〉